

司式:大塚 明子
奏楽:橋本恵美子

前奏:「来ませ、聖霊よ、主なる神よ」(N de グリニー)

招詞:わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついには塵の上に立たれるであろう。(ヨブ19:25)

讃美歌 12:「とうときわが神よ」

交読詩編 104. 24-35

- 24 主よ、御業はいかにおびただしいことか。あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。地はお造りになったものに満ちている。
- 25 同じように、海も大きく豊かで/その中を動きまわる大小の生き物は数知れない。
- 26 舟がそこを行き交い/お造りになったレビヤタンもそこに戯れる。
- 27 彼らはすべて、あなたに望みをおき/ときに応じて食べ物をごさるのを待っている。
- 28 あなたがお与えになるものを彼らは集め/御手を開かれれば彼らは良い物に満ち足りる。
- 29 御顔を隠されれば彼らは恐れ/息吹を取り上げられれば彼らは息絶え/元の塵に返る。
- 30 あなたは御自分の息を送って彼らを創造し/地の面を新たにされる。
- 31 どうか、主の栄光がとこしえに続くように。主が御自分の業を喜び祝われるように。
- 32 主が地を見渡されれば地は震え/山に触れられれば山は煙を上げる。
- 33 命ある限り、わたしは主に向かって歌い/長らえる限り、わたしの神にほめ歌をうたおう。
- 34 どうか、わたしの歌が御心になくように。わたしは主によって喜び祝う。
- 35 どうか、罪ある者がこの地からすべてうせ/主に逆らう者がもはや跡を絶つように。わたしの魂よ、主をたたえよ。ハレルヤ。

朗読聖書①創世記 2. 1-9

- 01 天地万物は完成された。
- 02 第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なさった。
- 03 この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された。
- 04 これが天地創造の由来である。主なる神が地と天を造られたとき、
- 05 地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。
- 06 しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。
- 07 主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。
- 08 主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。
- 09 主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいさせられた。

朗読聖書②ヨハネによる福音書 20. 19-23

◆イエス、弟子たちに現れる

- 19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。
- 20 そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。
- 21 イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」
- 22 そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

23 だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

祈祷

恵み深き主イエス・キリストの父なる神さま。尊い聖名を賛美申し上げます。

聖書によれば主イエスは弟子たちに、「父なる神はいつまでも弟子たちと共におらせくださる新たな助け主を送ってくださる」と約束され、その「助け主は弟子たちに全てのことを教え、主イエスが話されたことをことごとく思い起こさせる」と諭されたと記されております。主イエスの十字架の出来事の後、身を潜めていた弟子たちに新たな助け手である聖霊が与えられたペンテコステを覚える今日の礼拝に私たちを招いてくださり、教会で、またライブ配信によって敬愛する兄弟姉妹と共に賛美の声を合わせ、御言葉の説き明かしに与る恵みの時が与えられましたこと心より感謝申し上げます。

聖日が巡りくる度に御言葉を豊かに与えられ、心を新たにしてお世に派遣される私たちではありますが、日々の生活の中で求められる仕事や周囲の人々との付き合いなど、目の前に置かれたこの世的な出来事に追われて、静かに祈ること少なく、御言葉に聞くことの少ない日々であることを御前に告白いたします。過ぐる週、講壇の中で示されたように、聖日礼拝で与えられた心の糧に感謝しつつも、その救いの喜びを周囲の人々に伝えることに思い至らない自分に気づかされております。神さまを生活の中心にすることなく自分中心の日々を過ごしてしまう罪深い私たちに憐れみ、私たちもキリストの弟子として招かれていることを自覚して、それぞれが遣わされる場にあつて伝道の業に励むことができるよう聖霊によって導いてください。

神さま、自らを顧みて人間の罪の深さを思い知らされ、悔改める日々の中にあつて、神さまが「善し」とされる生き方に少しでも近づくことができるよう、神さまが求められる「公正を行い、慈しみを愛し、謙って神と共に歩め」との思いを忘れさせないでください。私たちの自己中心的な行動によって無自覚に周囲の人々を傷つけることのないように、心鈍く弱い私たちに導いてください。絶えず神さまの御言葉に立ち帰ることができるよう聖霊を豊かに注ぎ、神さまに喜ばれる道に引き戻してくださいますようにと祈ります。

20 世紀の二度にわたる世界戦争を経た教訓から世界の平和を維持するための出が形成されて 80 年が経過した今、超大国の為政者たちによる権力の乱用によってその秩序が破壊されつつあることに心が痛みます。今こそ絶大な権力を持つ為政者たちに、「殺すな、盗むな、貪るな」との戒しめと、主イエス・キリストが説き明かされた平和の教えを神さまがお示しくださって、彼らを悔い改めへと導いてくださいますように。ウクライナ、パレスティナ、ペルシャ湾岸地域、ミャンマー、スーダンなどで繰り返されている悲惨な戦いが終わり、一日も早く平和な日々が戻ってきますようにと祈ります。小さな、小さな力しかない私たちではありますがそのためにできること、為すべき務めをお示しください。

神さま、今日私たちの群れに新たな兄弟をお与えくださる恵みに感謝いたします。受洗の準備をされてきた田中隆充さんとご家族ご一同を神さまが祝福し、今日からの信仰生活の上に聖霊の御導きが豊かにございますようにと祈ります。また田中さんと信濃町教会員のこれからの主にある交わりが神さまの祝福を受け、共に主イエスを仰ぎ見つめ歩みを重ねていくことができますように導いてください。

本日の礼拝を覚えてつも仕事や家事、育児、家族の介護や高齢のために共に集めない方々が多くいらっしゃることを思います。どうぞそれぞれの場であってお一人お一人に神さまが臨んでくださり、この週もお導きくださいますように。また私たちの群れの中に入院されている兄弟姉妹、怪我の治療やリハビリに努めている方々がいらっしゃることを思います。体の痛み、心の痛みを神さまがその場であって柔らげ、癒してくださいますように。今健康を与えられている私たちは祈りの中に覚えて一日も早く病や怪我が癒されて共にまた教会に集い交わりの時が与えられますようにと心よりお祈りいたします。

神さま本日の説教者を感謝いたします。御言葉の説き明かしを担われる佃雅之牧師の上に聖霊を豊かに注ぎ、先生の口を通して神さまが存分に語ってくださいますように。聞く私たちの心が開かれて、先生を通して示された主イエスの教えを心に刻んで、この週も私たちの前に立つ隣人に愛を持って共に歩むものとならせてください。

言い尽くせない感謝と願い、集う皆さまの祈りと共に、主イエス・キリストの聖名によって御前にお献げいたします。アーメン。

洗礼式：日本基督教団信仰告白(受洗者：田中隆充)

讃美歌 343：「神の霊よ、今くだり」

説教 「聖霊を受けよ」

佃 雅之

本日は聖霊降臨日ペンテコステの礼拝です。私たちはこの日、『使徒言行録』第2章に記されている聖霊降臨によって教会が誕生した出来事を思い起こします。しかし古くから教会では、先ほど朗読されました『ヨハネによる福音書』20章19節から23節の御言葉も読んできました。“ヨハネのペンテコステ”と呼ばれるこの箇所には、教会の始まり、教会の原点が示されているからです。

福音書記者ヨハネの伝える聖霊降臨の出来事は、「その日」、「すなわち週の初めの日」と語り始められます。「その日」とは主が復活された日のことです。後に教会が「主の日」と呼ぶようになる日曜日、弟子たちが共に集まっていた、その時、その場所に復活された主が来てくださったのです。

この時の弟子たちは、キリストを十字架につけたユダヤ人たちを恐れて、戸を固く閉ざして息を潜めるようにして身を隠していました。イエスと一緒にいた弟子たちはどこへ行ったのか、自分たちの居場所が知られれば逮捕され、キリストと同じように十字架につけられてしまうのではないかと恐れていたのです。また聖書には書かれていませんが、“キリストを裏切り、見捨て、見殺しにしまった”という事実深く怯えていたのでしょう。もし本当に主が語られた通りに甦えられ自分たちの前に現れたなら、その時、裏切りは厳しく指摘され、審かれるに違いない。何よりも恐ろしいのは、裏切ってしまった相手と再び会うことではないでしょうか。人は自分には赦されない罪があると感じる時、心を閉ざします。そして自分を守るために誰かを審き始めます。さらには神に対してさえ心を閉ざしていくのです。

弟子たちが閉ざしていたのは家の戸だけではなく、彼らは人にも神にも自分自身にも心を閉ざしていたのです。この時の弟子たちは悔みさと絶望の中にありました。自分たちの弱さと罪深さを突きつけられ、全ての望みが失われてしまったように感じていたことでしょう。しかしそこへイエスが来てくださるのです。

教会の原点は勇敢さではなく恐れです。希望に満ちた出発ではなく、深

い絶望の中から始められます。ヨハネの伝えるペンテコステの出来事は、弱さに押し潰され、戸を閉ざして震えている弟子たちのもとへ主が来てくださることから始まるのです。「イエスが来て真ん中に立たれた」という言葉には大変深い意味があります。教会は復活の主が中心に立つてくださることによって成り立つ群れです。教会の中心には、私たちの努力でも計画でもなく、復活の主御自身なのです。主は裏切った者も、逃げた者も、恐れの中に閉じこもっていた者も、誰一人退けることなく、その真ん中に立つてくださいました。復活の主は罪人たちの真ん中に立つてくださるお方なのです。そしてここで最も大切なのは、“弟子たちが探しに行ったのではない”ということです。弟子たちが戸を開けて迎い入れたのでもない、主の方から来てくださったのです。ここに福音があります。閉ざされた戸も、恐れも、後悔も、絶望も、この世のどのような力も、主が来ることを妨げることはできません。主は弟子たちの真ん中に立たれてこう言われます、「あなたがたに平和があるように」。それは人々が日頃から交わっていた“シャローム”という挨拶の言葉でした。つまり主は裏切った弟子たちに、いつもと変わらない挨拶の言葉をかけられたのです。弟子たちがキリストと顔を合わせるの、あの裏切りの夜以来のことです。彼らは主を裏切り、見捨て、逃げ去った、その姿のままそこにいました。何一つ償うことはできていません。けれども主は、“よくわたしを見捨てたな”とは仰いませんでした。ただ「あなたがたに平和があるように」と語りかけ、“もう大丈夫だ、わたしはあなたがたを赦している”と告げてくださったのです。ペンテコステは審きの日ではなく、主の赦しによってもう一度弟子たちが歩き出すための再出発の日なのです。

そして主は弟子たちに「手とわき腹をお見せになりました」。手の傷は十字架の上で釘付けにされた傷です。わき腹の傷は兵士の槍によって差し抜かれた傷です。復活された主は十字架の傷を負ったまま弟子たちの前に立たれました。そこにおられるのは十字架で死なれたイエスご自身です。弟子たちは手とわき腹を見て、“十字架で死なれた主と今ここに立ておられる復活の主は同じお方である”ことを知ったのです。そしてその傷が私たちのための傷であったことが示されたのです。その傷ついた手とわき腹は、私たちにこう語りかけています。“あなたたちのための審きすでにわたしが受けた。あなたの罪も神に対する負い目も、わたしの血で、わたしの命で、すべてわたしが支払った、だから恐れなくて良い”。復活の主の言われた“平和があるように”という言葉は、“十字架によって罪の赦しが成し遂げられた”という宣言です。

今この礼拝堂の中には、神に近づくことを躊躇っている人がいるかもしれません。“私はとても神の前には立てません、私のような者が神に受け入れられるはずがない”、もしそう思っているなら、その人はキリストの恵みの大きさをまだ知らないのかもしれません。主イエスは私たちが安心して神の前に立ち、神の子として生きることができるよう、救いの御業を全て成し遂げてくださいました。ですからもう躊躇う必要はありません。キリストが十字架で流してくださった血によって、神と私たちを隔立てるものは既に取り除かれているからです。弟子たちが主を見捨てた時も、主は彼らを愛しておられました。手とわき腹に残された傷が主の愛の徴、私たちを赦すために負われたものであることを知ったから弟子たちは主を見て喜んだのです。

復活の主は再び「平和があるように」と言われてから、「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」と言われました。父なる神が御子イエス・キリストをこの世に遣わされた、その救いの御業と権威に基づいて弟子たちもまた世へと遣わされるのです。

キリストがこの世に来てくださったこととは何でしょうか、私たちが毎月第

1 主日に交読している『罪の告白、赦し』の御言葉の中に、キリストがこの世に来られた目的の中心がよく示されています。“神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく御子によって世が救われるためである”。キリストがこの世へ遣わされたのは、罪に沈む人間を滅ぼすためではなく、その罪を赦し、失われていた神との交わりを回復し、神の命の中で生きようとするためです。主によって遣わされる教会もまた、審きではなく赦しを宣べ伝えるためにこの世へ遣わされていきます。人を審くのは神ご自身です。私たちに委ねられているのは、自分の思いや感情によって誰かを審くことではありません。私たちは弱さを抱えた『土の器』のようなものです。けれども、その『器』の中にキリストの赦しと命の福音が託されています。その福音をこの世界に告げ知らせるために、私たちは立てられているのです。

主は弟子たちに「息を吹きかけ」られました。それは神が人に命の息を吹き込まれた創造の出来事を思い起こさせます。ここでヨハネが用いる「息」という言葉は、“神の命”そのものを指しています。「彼らに息を吹きかけられて言われた」という出来事は、復活の主を信じる者たちに与えられる『新しい命』の始まりを告げる言葉です。つまりここで起きているのは“新しい人間の誕生”、“新しい教会の創造”です。恐れに閉じこもり、自らの罪に苦しみ、命を失いかけていた弟子たちに、復活の主はもう一度命の息を吹き込まれました。“生きよ”“立ち上がれ”、“わたしの霊によって新しくされよ”。

聖霊を受ける時、それはキリストの命に与ることです。“恐れに支配されていた者が証人へと変えられる、閉じこもっていた者たちが遣わされる者になる、死に向かっていた者が生きる者となる”、それが聖霊の働きです。ペンテコステとは復活の主の命の息が人間の内に吹き込まれる出来事です。教会とは復活のキリストの息によって生かされ、赦され、遣わされていく群れなのです。

キリストは弟子たちを派遣し、こう言われました。「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。(23 節)」この御言葉を理解する鍵は、主ご自身が教えてくださった『主の祈り』にあります。私たちは『主の祈り』の中で、“われらに罪を犯すものをわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ”と祈ります。主は神の赦しと私たちが互いに赦し合うことを切り離してはられません。神の赦しを受けた者は、その赦しの中に生かされながら他者を赦す者へと変えられていくのです。赦された者が赦す者になる、ここに福音の命の流れがあります。人を赦すことは決して簡単なことではありません。私たちは赦されたいと願いながら人を審き、心を閉ざしてしまう者でもあります。それでも教会は主イエスの祈りを自らの祈りとして祈り続ける群れでありたいのです。主は「だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る」と語られました。これは決して“人を赦すかどうかを私たちが決めてよい”という意味ではありません。教会がキリストの十字架による赦しを語らなければ、人々は自分もキリストによって赦されていることを知らないままになってしまいます。私たちは自分の力ではなかなか人を赦すことができません。しかし聖霊によって復活の主の命に生かされる時、私たちは赦す者へと変えられていきます。それは人間の努力ではなく、復活の主が私たちの内で働いてくださるからです。

ペンテコステは赦された者が赦しを語る者へと変えられる出来事です。復活の主は恐れと罪によって閉ざされたこの世界へ、今日も教会を遣わされます。怒りと分断、憎しみと報復に満ちたこの世界に向かって教会は語り続けるのです。“キリストにあってあなたの罪は赦されている”、この福音を携ええて宣べ伝えるために、私たちは聖霊を受けているのです。主は、“わたしも

あなたがたを遣わす”と言われました。これは“あなた方だけで行くのではない、わたしも共に行く”という約束です。“あなたの命はもはやあなた一人の命ではない、あなたは今キリストのうちに生かされ、キリストもまたあなたの内に生きていくのだ”ということです。主は、“あなたが生きるその歩みの中でわたしが生きていることを証しなさい”と語られるのです。

今日、私たちの教会には新しく受洗者が与えられました。洗礼とは聖霊によってキリストに結ばれ、新しい命に生かされる恵みを目に見える形で表す徴です。私たちは洗礼によってキリストと共に死に、キリストと共に生きる者とされます。復活の主の命に与る者とされているのです。主は生きておられる、だから私も生きるのです。

弟子たちは後に激しい迫害の中にあっても福音を語り続けました。それは彼らが強い人間になったからではありません。弱さや恐れがなくなったからでもないのです。復活の主の声を聞いたからです。主の命の息を受けたからです。今も主は私たちの真ん中に立ってこう語りかけてくださっています。“聖霊を受けよ！”お祈りをいたします。

聖なる神。復活の主が弟子たちに息をかけられたように、私たちにもあなたの命の息を注いでください。赦された者として立ち上がり、赦しを語る者へと変えられるように導いてください。教会が審きではなく、キリストの赦しと平和をこの世界に届ける器となりますように、私たち一人ひとりをキリストの証人として用いてください。全てをあなたの御手に委ねます。主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:564「イエスは委ねられる」

献金・感謝(上村英明)・主の祈り

父なる神さま、主にある兄弟姉妹と共に礼拝を献げることが許されましたことを感謝いたします。本日、このペンテコステ、佃先生の説教を通して豊かに御言葉を与えてくださり感謝いたします。本当に厳しい？？の中、再出発をすることの意義の重要性を今日は噛みしめることができました。

世界中様々な理不尽なことが広がっている中、私たちが前に進むことをとても重要なことだと思います。私たちがこの一週間をそれぞれの旅路の中で御言葉を糧として歩むことができますよう、お導きください。

私たちは必要なものを与えられ主の僕として生きることを赦されていることを感謝いたします。今それぞれが与えられた物の中から、感謝と献身の徴を御前にお献げいたします。どうぞ祝して教会のご用のために用いてください。

主が教えてくださった主の祈りを共に祈り、新しい日々を迎えさせてください。「主の祈り」…アーメン。

讃美歌:91「神の恵みゆたかに受け」

派遣:主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:週報記載以外、特記事項無し。後奏後、受洗者紹介

後奏:「来ませ、聖霊よ、主なる神よ」(N de グリニー)